

大雪山登山の前に知っておきたいこと

ナビゲーションと事故防止

大雪山の人里離れたエリアへと続くハイキングコースには、最小限の標識と道しるべしかありません。こ

れは、公園の手付かずの自然環境を保護するためです。事故防止や迷子防止のため、以下に注

意して進みましょう：

- とりわけ数日間のコースを進む予定の場合は、地形図やコンパスを持参するようにしまし
う。
- 各ルートの概要を把握するため、大雪山登山グレード指定を確認しましょう。
- 登山口で記録簿に日程を記入しましょう。
- 雪に覆われた箇所を進む場合は、特に用心しましょう。
- 霧が生じる場合はナビゲーションが困難なため、ハイキングを中止しましょう。

事故の場合は、110 番通報しましょう。緊急の場合の救助費をカバーできるよう、登山保険への加

入が推奨されます。

水

コース中では水源が限られています。蒸気や雪解け水は、飲む前に必ず熱するか、ろ過を行い、ベニギツネの糞から感染するエキノコックス症の予防に努めましょう。

天候と気候

大雪山では、ほぼ 1 年を通して雪が見られます。ハイキングに適しているのは、標高が高い場所であり雪の降らない、7 月中旬から 9 月中旬までの夏季です。樹木限界線の上を通る際は、突然の天候の変化や厳しい天候に備えておきましょう。日没後や曇りの日は気温が急激に下がるため、夏でも低体温症のリスクが伴います。大雪山では、9 月上旬に紅葉が始まり、日本のどこよりも早く秋が到来します。初雪は、通常、9 月中旬ごろに観測されます。ハイキングに行く季節にかかわらず、安全に関する以下の点に注意しましょう：

- 適切な服装を心がける。暖かい服装を持参し、雨具を用意しておく。
- 雪の中を進む場合もあるため、丈夫な防水のハイキングシューズやゲートルを履く。
- 大雨の場合は小屋やテントに避難する。
- むき出しの山頂部等では強風に用心する。テントがきちんと固定されていることを確認する。
- 十分な食糧と水を確保しておく。
- 視界が悪くなった場合は、霧が晴れるのを待つ。

クマとの遭遇防止

大雪山には、たくさんヒグマが棲息しています。クマとの遭遇は回避できるように注意しましょう：

- クマよけ鈴を持参しましょう。とりわけ小川の近くや視界が悪いエリアでは、手を叩いたり笛を鳴らして音を出しましょう。
- 熊スプレーを持参しましょう。熊が向かってきた場合や攻撃してきた場合にのみ使用しましょう。
- 食べくずを地面に残したり、臭いの強い食事を調理しないようにしましょう。
- パスタなど、水分の残りを捨てる必要があるような食事は調理しないようにしましょう。熊の嗅覚は優れており、食べ物の残りにつられてやってくる場合があります。
- 調理後は、ペーパータオルで器具を拭き、持ち帰りましょう。
- 生ごみは密閉のポリ袋や容器に入れましょう。
- ペットは連れてこないようにしましょう。
- 熊に遭遇した場合は、走ったり背を向けたりしないようにしましょう。落ち着いてゆっくりと撤退しましょう。

キャンプ

キャンプでは、自然環境に害を与えてしまうことがあります。以下の手順に従い、キャンプによる害を最小限に抑えましょう：

- 指定エリアでのみキャンプしましょう。
- キャンプファイヤーは行わないようにしましょう。
- テントを設営する際、植物を踏み荒らさないようにしましょう。
- ゴミは持ち帰りましょう。

コースと野生生物への被害防止

大雪山は、多様な野生生物と植物の棲み家です。以下の注意点に従い、自然環境への影響を最小限に抑えましょう：

- 保護キャップを使ってトレッキングポールを覆いましょう。
- ぬかるんでいたり、雪に覆われていたりする場合でも、指定のコースから外れないようにしましょう。ぬかるんでいたり雪に覆われていたりする場所は、安全のためゲートルを履いて進みましょう。
- 花や植物、あるいは石などを持ち帰らないようにしましょう。
- 野生生物に餌を与えないようにしましょう。

携帯トイレ

トイレは、大雪山のごく少数のキャンプ場にのみ設置されており、人間の排せつ物は環境に悪影響を及ぼす可能性があります。登山口の近くで購入できる携帯トイレを持参するよう、ハイカーの皆さんにはお願いしています。ハイキング終了後は、登山口の近くの指定のゴミ箱に捨ててください。ゴミ箱が設置されていない登山口もあるため、場合によっては自宅まで持ち帰る必要があります。予めご了承ください。